大会レポート
第 19 回インターハイ
2006 年 3 月 18･19 日

OLC 東海 団体初制覇！

OLC東海顧問
大野聡生

2005 年度 第 19 回
全日本高等学校選手権大会
（静岡県富士市、丸火自然公園）

富士。最高の舞台。OL 界の“甲子園”。

関東に勝って日本一になる！

「関東に勝って、日本一になる！」これは、2 年前に山倉貴之が東海としてはじめてインターハイ個人優勝した時のマガジン原稿の見出し。当時は力量に見合わぬ過剰な目標を掲げているのは充分感じていた。しかし、今回は別の意味でそのスローガンを必ずや達成しようと皆が心に秘めていた。

昨年度インターハイ。団体では岡本が焦ってパンチをし、「痕が薄い」と涙の失格。個人では、宮地がコンパスを落とすなど、実力が発揮できずじまいだった。宮地(東海高 2)はじめ当時高 1 の 4 人と、中学 3 年で断トツの成績を挙げていた 3 人が 1 年間よく努力してきた。それまでの漠然とした「関東に勝つ」ではなく、明確に目標を捉えての「関東に勝つ」を目指した一年であった。

そして、今年は見事団体戦初制覇。“勝つべくして勝った”内容だった。

また個人戦は、日本代表宇野夏樹選手(武相高 2)にわずか 12 秒差で負けたが、来年はきっとひっくり返せるだろうという自信と期待を抱かせる内容だった。

【団体】東海 1･2フィニッシュ！

初日は団体戦。まず会場でサンプル地図が提示され、ほぼ事前予想通りのコースであると確信。東海勢は皆余裕をもってスタートに臨めたはずである。

東海の A・B チームは、E 権セレクションレースランキングにより組んだ。最終セレで宮地がトップにたち、前澤(東海高 2)が落ちた。この 1 年間の高 1 の目覚しい活躍が、チーム編成の軸となった。

1 走はともに全日本リレー愛知県ＭＪチームでも 1 走だった戸田(東海高 2)と河村(東海高 1)。Aチーム河村は前々日のリレー練習会でポイントを飛ばすペナをしていて、本人ならずとも夏のＣＣ７のペナが頭によぎるような状態であった。しかし、この 1 年間での伸びはチーム一番であるので、持ち前のロケットスタートをする余裕があれば、問題ないだろうと見ていた。また、B チーム戸田は前日夜ミーティングでの心地よい高揚感を感じている顔が印象的だったので、全く心配が無かった。

高校団体 1 走対決：
Aﾁｰﾑ河村(左)がﾄｯﾌﾟでﾋﾞｼﾞｭｱﾙ通過。2 分ほど遅れてBﾁｰﾑ戸田(右)がようやく通過。このあとラスポで逆転してくる。

2 走:B ﾁｰﾑ岡本が高速でﾋﾞｼﾞｭｱﾙ独走通過！ 1 位を確認。

2 走→3 走:宮地追上げ。花粉対策万全の伴へ。

3 走:桜井の好走。ﾋﾞｼﾞｭｱﾙ後 10 ポを飛ばし焦って戻るも、5 分差を守り切りゴール！

1 走のビジュアル通過はAチーム河村がトップで、そのすぐ後ろに麻布Aチームがぴたりとつけていた。その後すぐ戸田も過ぎ、ひとまず安心。しかし、ビジュアル後 5 分で帰ってくるという設定なのに、7 分経っても河村が帰ってこず、結局戸田がトップに。どうも最後の沢の確認に手間取ったようである。

Bチーム 2 走は、昨年のリレー失格をこの一年忘れず励んできた岡本。A は宮地。どちらもここで充分に他を引き離し、予想される武相 3 走宇野選手の追い上げプレッシャーを少しでも楽にしたいところ。その思惑を 2 人とも見事に現実のものとした。

先行するＢチームアンカーは、第 3 回主催大会の実行委員長としても活躍した桜井。冷静な桜井も岡本がリードを守りトップで帰ってきた時にはかなり緊張した様子に見えた。レースは、予想していたテレイン内の特徴箇所をうまくカットして、中間・ビジュアルとも今までの選手の中でもトップ。あとは、全員でウイニングランだ！とがぜん盛り上がった。が、会場内から見えるビジュアル後のポストを通過する桜井の様子が無い…。実はそのポイントを飛ばし次へ向かっていたのである…。本人はさすがに焦り、他に抜かされたのではと思いながら戻って取ったそうである。しかし、前半の自身の貯金がきいて 5 分差を守りきり、優勝のテープを切った。

一方Ａチームアンカー伴(東海高 1)は、予想通りビジュアル前辺りから宇野選手の猛追を受け、ラスポ付近で追いつかれたが、一瞬のスキで前に出て、わずか“12 秒”差で逃げ切った。

結局優勝したＢチームも素晴らしいが、この接戦を制し 2 位になり東海で 1･2 位フィニッシュできたのは、翌日の個人戦に勢いをもたらした大事なポイントであったと今振り返る。公式記録では「参考タイム」(同校内で上位チームの成績のみを採用し順位付けをする)となってしまい、銀メダルももらえないだけに、ここに賞賛しておきたい。

高校団体優勝: 東海 B(戸田･岡本･桜井)

【個人】宇野選手“12 秒”競り勝つ

団体の興奮冷めやらぬ夜のスタート順抽選会で、シード河村が、「本気出せば勝てる！」と団体戦の勢いを借りて他を挑発し、会場を盛り上げた。その抽選結果では、河村の直後に宮地、前年度優勝者シードの斎藤選手(桐朋高 3、3 位狙いと謙虚なコメントだった)の前に前澤、後ろに桜井(東海高 1)、シード宇野選手(明日のコース予想コメントをしてみせる姿からは相当の自信がうかがえた)の直前に岡本と、後半に有力選手が集中し、予想される走力勝負にさらにプレッシャーをかけるスタート

順になった。

まず、7番スタートの伴が45分でゴールしてきた。大きなミスも無かったと言うし、5160mのコース地図を見て、これなら圏内かと思わせた。しかし、ついに後半組トップを切って宮地が40分9秒でゴール。断トツのトップに躍り出た。伴とのタイム差を告げるとさすがに満足げな様子だったので、昨年の借りが返せるのではないかと期待が膨らんだ。

宮地快走！40分をたたき出す。このあと数分岡本・宇野選手を待つ。

その後、有力選手が続いてこない。ついに抜き抜かれつの接戦を演じているであろう岡本・宇野が来る頃となった。後1分で宮地が優勝というところで、岡本が怒涛のゴール。宮地には1分及ばず。そこで、快走を讃えるのも忘れ、すぐに「宇野は？」と聞いた。「すぐ後ろにっ！」との答えで振り返ると、そこには武相の青いトリムが見えた…。

秒差で勝敗を分けることを知る武相高・多摩ＯＬの応援団が最後の大声援。それに見事応え、なんと12秒差、それも40分を切る39分57秒でゴール！敵ながら天晴れの走りを見せてもらった。すぐに貼り出された速報を見入る宇野選手は「もっと大差で勝ちたかった…」とさすがのコメント。東海勢はこれが実力精一杯だろう。

左から1−6位。予想通り宇野vs東海の結果。

その後、ルート検討で耳をそばだてると、宇野選手は途中10→11の道走りで2分ほどのロス。逆に宮地は、前半4→5で90度ほどずれて北上、工事現場に出て2分ほどロス。（2分に押さえたといってもよいか）それぞれのミス率は、宇野選手9.4に宮地8.8。ほぼミス無しと言っていた4位河村は8.5。ほんのわずかの差で決した、ハイレベルな戦いであったと言えるであろう。

一方、今年もただ一人の参加となったＷＥは、高野美春選手がMEと同コースを走り、1:19:55で連覇した。ライバルの出現がまたれる。

そして併設ＭＪクラスでは、宇野夏樹選手の弟、駿介選手(堺中3)がラスポで4分ほどのミスをし、東海の中3堀田に勝利が転がり込んだ。来年のＭＥには、この中3勢が大きな波となり乗り込んでくる。

月水金：ひたすらサッカー

今年も昨年に続き、両日ほぼ同じ地図範囲。また、リレーは未完走チームを減らす意図からか、若干易しく感じた。したがって、東海勢が口を揃えて言ったことは「自分たち向きのコース設定だった」。「走力」がものをいったということか。

実は諸事情により、2学期後半から通常の授業後練習がすべて「サッカー」に切り替わった。近くの河原まで往復6km ほどランニングしてサッカーをして帰ってくる。この2年間練習の組み立てはすべて生徒任せなので、各自それぞれの自覚により練習効果はちがっていたと思うが、年末合宿などで他校と比較しても、格段に持久力が上がっていたように思う。

土日：年40回の練習会・大会

そして、普段出来ない技術練習はすべて、土日の近隣で行なわれる練習会や各クラブ主催大会に頼った。そこで、愛知ＯＬＣや三河ＯＬＣの方々に多くを教わり力をつけてきた。全日本リレーでの愛知県チームの活躍が象徴する勢いをもらえるラッキーな環境があった。

また、東海関西地区Ｅ権セレに参戦し東海勢に刺激を与えてくれた藤田飛鳥選手(豊田高専1年、ＭＥ第14位56分28秒)の存在も大きかった。

地図読み・コース予想

昨年全日本、年末合宿で実走した「富士丸火自然公園」。年明けから、気のある者は地図読み・コース予想を始めた。特に直前はリレーと個人のコース予想や、年末合宿で教わった特製地図パズル“丸火バージョン”などを使い、地図が頭に入るくらい時間を費やした。

ＯＢの思い伝わる素晴らしき大会

また今大会は、東海にとって成績面以外に歴史に残ることがある。それは東海ＯＢのインターハイ実行委員としての活躍である。中央大1年加藤峻一と東工大1年近藤友洋である。今まで関東の高校OBの皆さんが主となっていた実行委員会に、2人は飛び込んでくれた。もちろん後輩のためを思ってであろう。大会当日の緊張感といったら、昨年までは大変なものであった。関東にヨソ者が乗り込んでいく感を、被害妄想的に抱いてしまっていたように思う。それを払拭してくれたどころか、先輩が後輩を思う気持ちを、実行委員として活躍する姿でしっかりと伝えてくれた。今後も後輩が続いてくれることを願うばかりである。

また、実行委員長小山さんや海老さんをはじめ皆さんには合宿や大会等で多く声をかけてもらい励ましてもらっていた。関東関西分け隔てなく、自らが通ってきた道の素晴らしさを伝えようとされる姿には、感動を覚えた。改めて今大会の運営に対し感謝申し上げたい。

実行委員長の小山さん

高校生の感想

戸田：団体は、一走としてはよい流れで次に渡せたと思う。これで終わったんだなあと少し肩の力が抜けた感じ。レースとしては思い通りに走れたから満足。もっと走れればという気持ちはあるけれど、今は清々しい気分。

岡本：結果は満足。リレーで有終の美を飾れたのはとてもうれしかった。去年の借りは返せたか。次はＣＣ７で頑張る。個人でも予想以上の順位で、そこそこ満足。ただ学校として勝てなかったのは少し悔しい。

前澤：団体ではチームを組んだ時に終わったと思ったが(ME走れず、中学生初心者と組む)、実際組んで指導しているうちに完走できるのではと思えるようになってきた。そして完走した。今回の走りが彼ら2人の今後に好い影響を与えることを願う。また個人ではかなりミスったが、それを含めて自分の全力だったと思う。50分切れなかった自分が不甲斐ない。正直、入賞したかった。メダルが欲しかった。

桜井：団体ではあまり思うように走れず、去年と同じビジュアル後でミスをしてしまったのが心残り。個人では入賞できず残念。途中何度か投げやりになってしまった。

伴：爽やかに走ることが出来たが、細かいミスが重なってしまい5位に終わってしまった。来年はもっとトレーニングをして1位をとる。また世界トレイル選手権出場も頑張りたい。

河村：来年こそ優勝したい。個人・リレー両方優勝する。

宮地：12秒を数えてみました。
1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12…。
来年は優勝するぞ！

東海勢で全10枚の賞状。よく切磋琢磨した。記憶に残る最高の大会となった。

ＩＨ2005公式ＨＰ
http://www.geocities.jp/ih_orienteering/index.html

（大野聡生）